

セブ島学

東洋大学国際地域学部 研究から

東洋大学国際地域学部では、2006年からフィリピンのセブ市で海外研修を行っています。08年夏も、18人の学生がこの研修に参加しました。スラムの住民たちが自らの力で生活を改善していく「コミュニティー開発」について、調査研究した学生たちが自身が情報発信します。

(指導・東洋大学国際地域学部 子島進)

報告者

国際地域学科・3年 今井 泰世
国際地域学科・2年 西本 勇太



今井泰世さん



西本勇太さん

国際的リゾート地

フィリピンは7000以上の島からなる島嶼国家です。この国は大きくルソン、ビサヤ、ミンダナオの3つの地域に分かれています。首都マニラの南方500キロに位置するセブ島は、ビサヤ地方の中心地として歴史上重要な役割を果たしてきました。1521年、マゼラン率いるスペイン艦隊が訪れ、フィリピンに初めてキリスト教を伝えたのも、このセブ島での出来事です。

セブ市では、3026平方キロに約72万人が居住しています。海岸沿いの平地のほとんどが都市化され、ここに人口の7割が集中しています。後背地には広い丘陵部が広がっていますが、その人口は全体

す。現在も南フィリピンの経済的・文化的中心地として、また国際的なリゾートとして

スラムの住環境改善

行政、住民、NGOが結束

繁栄し、毎年多くの外国人観光客を迎えています。

近年、目立つのが韓国人の語学留学の増加です。スペイン支配の後、19世紀末からアメリカに統治されたため、高等教育を受けたフィリピン人は流暢な英語を話します。他の地域に比べて治安がいいセブで、安価に英語を学ぼうと訪れています。

セブ市では、3026平方キロに約72万人が居住しています。海岸沿いの平地のほとんどが都市化され、ここに人口の7割が集中しています。後背地には広い丘陵部が広がっていますが、その人口は全体

の3割にすぎません。

セブの都市部の特徴は、貧富の差が激しいことです。産業が発展しつつあること、観光地としても栄えているセブには、「ヒバリーヒルズ」と呼ばれる超高級住宅街で、雇い人に囲まれて暮らしているお金持ちもいる一方で、人口の半分以上は極端に貧しい生活を送っています。観光客向けの高級ホテルの目の前や、高額所得者が住む警備員付きの住宅街の丘の下に、掘っ立て小屋が連なる地区が、セブには点在しています。土地を不法に占有している状態がほとんどであり、このような地域に居住している貧しい人々のことをスロットターといま



フィリピン

す。不法に土地を占拠しているという点で、行政からのサービスもほとんどない状況です。

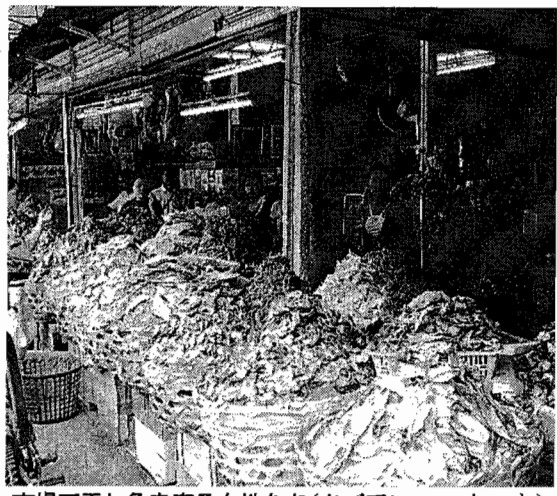
先進的な取り組み

セブ市の失業率は、16%という高い数字となっており、地方からセブに出てきて

も、教育を受けていない人は、英語が話せなかったり、事務ができなかったりという理由で観光産業や工場で働くことができません。路上で物を売ったりするだけでは、収入も不安定です。このため、貧困の状態からはなかなか抜け出すことができません。

多い大型商業施設

最後に、セブ市を訪れて一番印象に残った商業施設のことを紹介します。市内には、いくつかの大型商業施設があり、いつ行っても大勢の人でにぎわっています。特にアヤラ・ショッピングモールは市内最大級の売り場面積を誇り、スーパー、映画館、銀行、書店、フードコートなどが入っています。ベネトン、ラコステ、ナイキといったブランドショップが若い世代に人気です。また、市内の大きな通り沿いには、パン屋、薬屋、中古携帯電話の販売店、カフェ・スイーツ店など、さまざまな種類の店が並んでいます。こちらはお世辞にもきれいなとは言えませんが、セブ住民の大半は外食が中心で、お昼や夕飯時の飲食店は、大勢のお客で混雑しています。私たちも講義や調査が終わった後には、フィリピン人の友人たちと一緒に、食事をショッピングを兼ねました。



市場で干し魚を売る女性たち(タブアン・マーケット)

私たちは今回、フィリピン大学セブ校で「都市貧困層におけるコミュニティー開発」に関する講義を受けました。講師は、社会学の教授、セブ市役所の地域開発担当、住民の生活環境改善に取り組んでいるNGOの職員などでした。講義を受けてわかったことは、セブ市がコミュニティー開発において、世界でも先進的な取り組みを行っているということでした。この分野において、貧しい住民の組織とフィリピン国内外のNGO、そして行政(自治体)の3者が積極的なパートナーシップを結んでいます。その結果、500以上の住民組織が形成され、お互いにネットワークを広げているのです。その活動は、フィリピン国内だけでなく、海外の行政やNGOからも注目されています。この活動に大きく貢献して

きたのが、トーマス・R・オスメーニャ市長と、都市貧困者運動の指導者のビンボ・フェルナンデス氏です。高校生時代、同級生だったという2人が、スラムの住環境の改善や、スロットター住民が土地を取得できる仕組み作りに取り組みました。このほかにも、セブ市は、住民とNGOが市の開発計画に直接携われるような制度を設けたり、ストリート・チルドレンへの教育支援プロジェクトも推進しています。

この活動に大きく貢献して

上州風

vol.29 [JOSHUFU] 定価940円 2008.9.30

「上州風」は、群馬の歴史、風土、自然芸術から暮らしまで、地域に根ざした多様な文化的資源を見つめ直し、その豊かさ・奥深さを新鮮な切り口で紹介する文化誌です。

レトロの力

失われつつあるものへの郷愁が、これから生きる私たちの力の源泉となる。

「南総里見八犬伝」と群馬

●国際ビジネスマンの先駆け・新井領一郎／小栗上野介没後140年祭



新刊の